特集／野村 勇 町長 2期就任インタビュー　企画・制作　建設未来通信社広告部

人口減少対策を柱に施策展開

～若者が住み続けたいまちづくり～

最優先に公民館建替

同町では初となる、連続の無投票当選を果たした野村勇町長。一期目では、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、町民の命を守るため力を尽くしながら、多くの事業を進めた。一方、町が抱える課題についても検討し続け、そして迎えた二期目。人口減少対策として、子育て世帯の移住促進、学校のあり方検討、賑わいの場の創出などを推し進める。多くの課題と忍耐強く向き合う野村町長に、今後のビジョンについて話を聞いた。

▲建て替えを検討している中央公民館

◆検討の一期目から二期目へ

一期目は、新型コロナウイルス感染症拡大の只中だった。行動が制約され、町制50周年を盛大に祝うこともできなかったが、自主財源の確保対策として行政改革、企業誘致、ふるさと納税の強化を進めた。一方で、就任3年目を迎えるころ、中央公民館の建て替えや学校のあり方、企業誘致、都市計画の見直し等、とにかく町が抱える課題についての検討を強化し、コロナが収束して動けるようになった時、速やかに実行できるようにしたいという考え方に変わった。

二期目を迎えるにあたっては、限られた時間、財政力の中、何を優先すべきかをしっかりと見極めたい。職員にも知恵を絞っていただき、町のポテンシャルを伸ばせるような、町民に喜んでもらえるような仕事ができればと考えている。

◆住みたくなる町を目指して

八千代町は消滅可能性都市に入っており、人口減少への危機感はとても強い。町の若者が大学進学や就職について考える時、だいたい東京へ向かってしまう。中学生を対象としたアンケートでは、若い女性のほとんどが都会に出ていきたいと考えていることが判明した。その時、町内には若い女性が働く場が少ないことに気づくことができた。

人口減少は避けがたいが、若い人が住み続けたいと思う町を目指し、例え人口が減少しても人手に困らず、財政力も確保し、賑わいも失わない町にできれば。そのためには、若い女性が働く場所、また子育て世帯の定住についても考えなくてはならない。

◆子育てしやすい環境を

移住促進住宅整備も推進

子育て世帯の移住促進住宅整備事業については、まずは14世帯分の集合住宅を整備する。10月末ごろには事業者が決定する予定で、2026年2月の完成を目指していく。集合住宅の反響次第で、戸建て住宅の整備も視野に入れたい。

町では、今後も子育てがしやすい環境を整えていく。自然災害に強く、広々とした、のどかな農村でゆっくり子どもを育てたいという方がいれば、ぜひ来ていただきたい。

◆小中一貫校なども視野に

町内には小学校が5校、中学校が2校あるが、校舎の老朽化等の課題もあり、今後もこれまでと同じように維持管理をしていくのは難しい。

一昨年に、学校のあり方検討委員会を立ち上げた。小中一貫校や義務教育学校の視察も行っており、検討を進めている。今年度中には答申が出る予定で、その後、町の考えをまとめていく。30年後も持ちこたえる学校を目指したい。

健全な教育、多様性を重視した学校生活のためには、ある程度の人数が必要となる。親はもちろん、子ども達も魅力を感じる町を目指すため、教育や部活動などについても魅力ある環境を整えていきたい。

◆町に賑わいを生み出す

町内の西と東で、一箇所ずつ賑わい創出の場を計画している。西方面では既存のグリーンビレッジ、東方面では旧中山家住宅の改修などを予定しており、各地域ごとの強みをつくりたいと考えている。

グリーンビレッジは、健康をテーマにした施設を目指す。キャンプや農業、スポーツを楽しみ、温泉にも入れる、町外の人を受け入れることができるような施設にしていきたい。

旧中山家住宅は古民家なので、文化度の高い、学習機能を持たせた場を目指したいと思う。

特色あるまちづくりを進める中で大いに悩んだ末、当町には農業があることに気付かされた。全国有数の農業産出額を誘るこの力を町の活性化につなげていく。

◆西のグリーンビレッジ

グリーンビレッジの改修については、若い人にも楽しんでもらえる施設を目指したい。町の顔として、町外の人を受け入れる窓口のような場になれば。来年度には事業化できるように進めていく。施設の老朽化が進んでいるため、今の時代に沿うような形に作り替えたい。

今年は検討委員会を立ち上げた。健康をテーマにした場として、デジタル機能で健康測定ができ、ネットで医師と相談ができるようなイメージを考えている。スポーツジムの併設やサウナの設置なども視野に入れたい。健康に対する、町民の意識改革も図れれば。

▲改修を予定しているグリーンビレッジ

◆東の旧中山家住宅

旧中山家住宅についても、改修に向けた検討委員会を始めている。明治期の建造物で、しっかりとした柱がある良い古民家なので、文化的な側面で利用できる施設にしたい。子どもたちが勉強会などに使えたり、コンサートも行えたり、楽しみながら様々なことを学べる場としての整備を検討している。

ここは景観もいい場所なので、さらに鬼怒川のサイクリングロードなどと組み合わせて利用できるようにし、グリーンビレッジとは異なるタイプの賑わいの場づくりができればと思う。

◆最優先の公民館建て替え

八千代町は災害に強いが、災害の激甚化や頻発化で何が起こるかわからない。中央公民館のほかにも、総合体育館など公共施設の老朽化が進んでいるため、建て替え等の再編を検討する段階にきている。このため、今年度に検討委員会を立ち上げ、方針の検討を進めている。

◆今後も建設業者と協力を

地元の建設業者とは災害協定を結び、色々な面で知識、技術を提供していただいている。災害時、最初に動いてくださるのは建設業の方々。もともと土木工事、道路や公共施設等、その技術力で町のインフラを支えてきてくれた方々なので、町の功労者としても感謝している。いっそうのご支援、ご協力をいただきたい。

八千代町建設業協会は、関東・東北豪雨の際に常総市へ応援に向かっており、実績もあるため心強い。町民の生命、財産を守るため、今後も協力していければ。

野村　勇（のむら　いさむ）

1959年7月14日生まれの65歳。下妻第一高等学校卒業後、78年に八千代町役場入庁。企画財政部長、総務部長などを歴任し、2019年7月に役場を退職。同年11月の町議会選挙で初当選。2020年1月に野村勇行政書士事務所を開設。同年9月に町長就任、今回2期目の当選を果たした。趣味は海釣り。最近はYoutubeなどの動画を視聴し、釣りやスポーツ、政治の情報などをチェックしている。

地域の守り手として、八千代町の発展に貢献いたします

髙塚建設工業㈱ 代表取締役 髙塚　幹夫 〒300－3544　八千代町若1789 TEL 0296(48)2525　FAX 0296(48)0065	野口機設工業㈱ 代表取締役 野口　貴生 〒300－3561　八千代町平塚3477－6 TEL 0296(48)2251　FAX 0296(48)2761	常総ブロック㈱ 代表取締役 野中　博道 〒300－3532　八千代町本郷473 TEL 0296(43)6767　FAX 0296(43)6129	㈱宮本工務店 代表取締役 宮本　俊二 〒300－3561　八千代町平塚1775 TEL 0296(48)0208　FAX 0296(48)0434
㈱岡田工務店 代表取締役 岡田　正男 〒300－3504　八千代町西大山280－1 TEL 0296(48)1730　FAX 0296(48)1750	㈲本戸建設 代表取締役 本戸　一弘 〒300－3502　八千代町下山川249 TEL 0296(48)1159　FAX 0296(48)0485	㈱大栄工業 代表取締役 小野里康司 〒300－3572　八千代町菅谷71－5 TEL 0296(48)1674　FAX 0296(49)3196	㈱磯建 代表取締役 磯　京子 〒300－3572　八千代町菅谷884－9 TEL 0296(48)2437　FAX 0296(48)2487
㈲矢中建設 代表取締役 矢中　義彦 〒300－3511　八千代町瀬戸井582－2 TEL 0296(48)0756　FAX 0296(48)3283	㈲山崎工業 代表取締役 山崎　明雄 〒300－3571　八千代町大戸新田19 TEL 0296(48)1225　FAX 0296(49)2812	中尾興業㈲ 代表取締役 中尾　守 〒300－3555　八千代町芦ケ谷649－2 TEL 0296(48)1535　FAX 0296(48)4171	八千代町建設業協会 会員11社　順不同